



第5回能登演劇堂ロングラン公演 無名塾「ロミオとジュリエット」の開幕まで、残り2カ月を切った。開幕に向け、着々と準備が進み、台本、そして演出が仕上がった。あとは舞台上立つ無名塾の役者たちが、完成した台本や演出から奏でる表現を、最高のパフォーマンスで演じるのみとなった。

平成9年から4年ごとに開催されている、能登演劇堂のロングラン公演。今年はその第5回公演が行われます。ひと足早く幕を開けた稽古から、この舞台に関わる人々の情熱が伝わってきました。

ト」の稽古が始動した。

初稽古ということもあり、スタッフを含めた、関係者約40人が参加。役者からは自己紹介を兼ね、公演に挑む意気込みも語られた。

無名塾主宰仲代達矢氏はあいさつで「今年は無名塾が立ち上がって40年、私自身役者になって60年となります。そういった思いも込め、ロングラン公演を成功させたいと思います」と語った。また、激励に訪れた不嶋七尾市長は、「初稽古が行われると聞き、七尾市から激励に参りました。チケットの販売も好調で、全国からお客さんが訪れようとしています。ぜひ、七尾市から全国に素晴らしい感動を与えていただきたいと思っています」と話した。

無名塾の神聖な場、仲代劇場で、張りつめた雰囲気の中始まった本格的稽古。役者がすべ

今回の見どころは人間愛です。

私は、仲代達矢さんや無名塾と一緒に仕事をするのは今回が初めてなので、基本的な演出プランはできていますが、これからの稽古を見ていきながら、皆さんのいいものを引き出すよう、修正していきたいと思っています。「ロミオとジュリエット」は世界でも有名な作品です。悲恋の物語であることは、皆さんもご存知だと思います。ですから、誰もが知っている物語を演じて面白くないです。そうしたら、どう演出をしなければならぬのかというのを考えなくてはなりません。この物語は、人が死んでいきます。そんな世の中とは、どんなものなのだろう。現在も物語です。昔も今も、死ぬことでは解決できないものがあるのではないかと考えます。だからといって、難しい物語にしたいというのはなく、人は失って後悔するということも今も昔も変わっていません。そんな中で、



てそろうのは初めてだったため、台詞の読み合わせから。そろうた役者は19人。皆これまでに幾度となく台本を読み込んできたのであろう。振付はないものの、最初から本番さながらの雰囲気の中で、一字一句、すべての文字に心を込めて台詞を語っていた。休みもなく、一気に読み上げる役者たち。聞いているだけでも壮大な舞台の様子が浮かんでくる。無名塾の真骨頂がうかがえた。

今回のロングラン公演では、どんな演劇を見せ、感動を与えてくれるのか。幕開けが非常に楽しみである。



演出 高瀬 久男さん

主人公であるロミオとジュリエットが尊い命を犠牲にした場面が、お客さんの心にしみ入るような演出にしたいですね。

そして、ただかわいそうな物語で終わるのではなく、どうして死を選ぶのかという純真な心も伝えたいと思います。昔から、大人の社会っていつも争っていますよね。大人になるとそのようなことは理解できなくなつてきますよね。そんな対照的な場面をはっきり演出できたらと思います。その辺りがこの公演の見どころでしょうか。楽しみにしてください。

いよいよ始動! 「ロミオとジュリエット」 序章。